

うちの子防災手帳



災害が発生すると、人もペットも同じように被災します。
いざというとき、安全に避難し、ペットを守るためには、
日頃からの心構えや準備がとても大切です。

この手帳には、災害に対する備えや、災害が発生した
ときの注意事項等を記載しています。

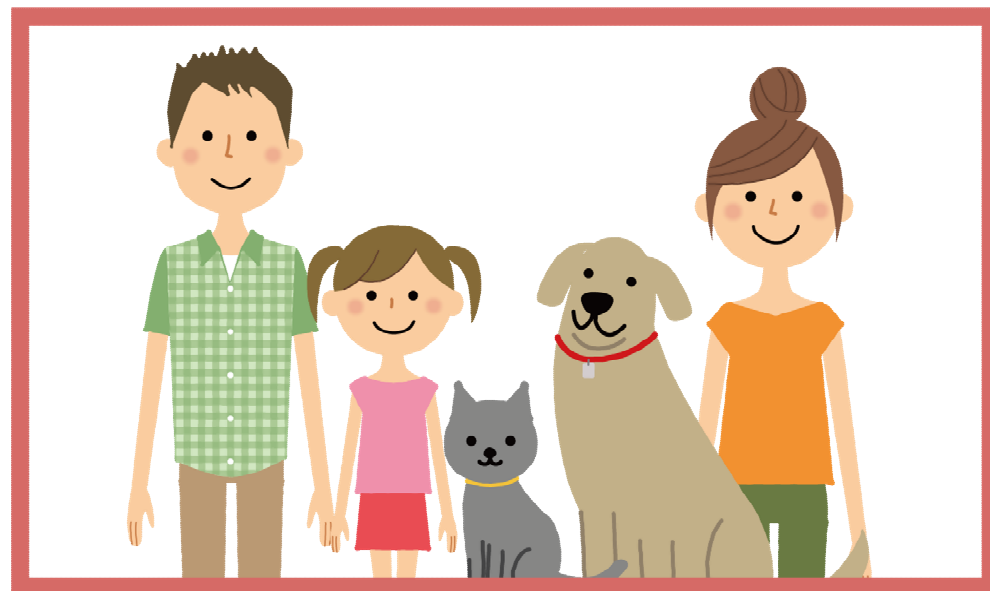
必要事項を記入後には、非常食などといっしょに非常用
持ち出し袋等に入れておき、ご活用ください。



熊取町



飼い主情報



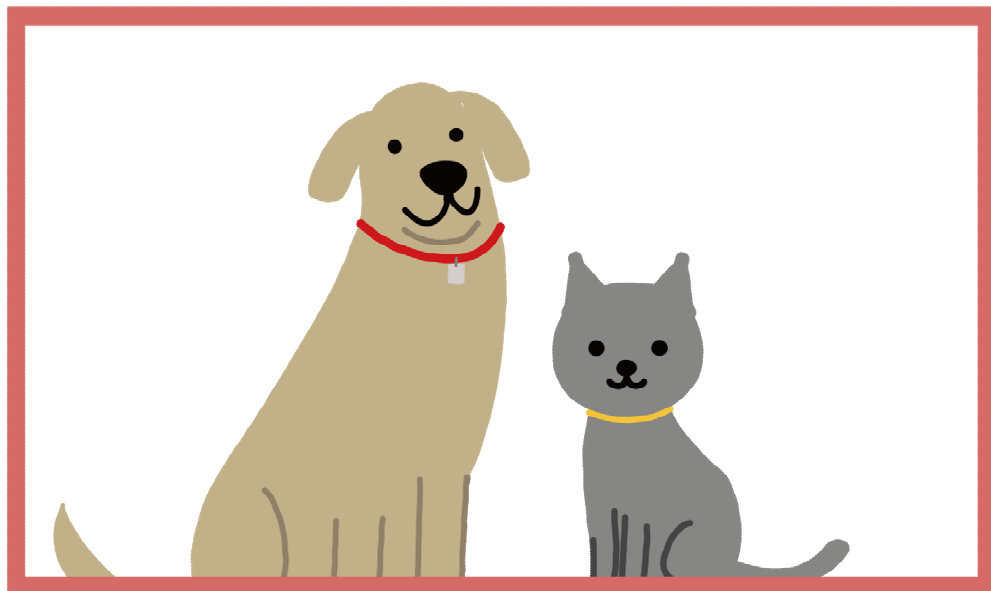
- ☆ あなたとペットと一緒に写っている写真を貼りましょう。
飼い主であることを証明するときに役立ちます。
- ☆ 写真は毎年、誕生日や防災の日などに更新しましょう。
あわせて、非常用持ち出し袋をチェックしましょう。

< 飼い主情報 >

フリガナ 氏 名	
住 所	
電話番号	(電話番号) - - (携帯番号) - -

※ 複数の子がいる場合は「うちの子追加シート」を印刷してください。

ペットの情報



☆ ペットの的外見や特徴がわかる写真を貼りましょう。

☆ かわいい写真に毎年更新しましょう。

名前			
種類	犬・猫・その他()		
品 種			
性別等	オス・メス 【不妊去勢手術 未・済】		
見た目の特徴・性格			
マイクロチップ	No.	・ 無	
	環境省指定の指定登録機関データベースへのマイクロチップ情報登録		済・未
鑑札番号(犬)	☆ 鑑札は必ず装着しておきましょう		

日頃の備え

避難所の生活は、ペットにとって安心できるものではありません。

災害が起きても自宅の安全が確保できていれば、自宅で生活できるように、食料や生活必需品を備蓄し、そして、避難が必要な場合にも対応できるよう日ごろから備えておくことが大切です。

1 迷子対策

迷子札、鑑札、狂犬病予防注射済票等は普段から身に着け、身元が分かるようにしておきましょう。

また、マイクロチップは、注射器で体内に入れておくもので、過去の災害時において、放浪中に首輪や迷子札が外れてしまった子でも、マイクロチップの情報※を元に無事に帰宅できたケースが数多くありました。

※ 環境省指定の指定登録機関のデータベースに、飼い主情報の登録が必要です。



2 感染症やノミ・ダニなどの予防

安心して避難生活を送ることができるよう、混合ワクチン等の各種ワクチン接種、狂犬病予防注射、フィラリア予防、ノミ・ダニや寄生虫の駆虫を日頃から欠かさずに行っておきましょう。

3 基本のしつけ

- ① 犬には「待て」「おいで」「おすわり」「ふせ」「ハウス」などを教える。
※ 家の外や、オヤツなしでもできるように訓練しておきましょう！
- ② ケージやキャリーバッグに慣らして、安心できる居場所と思えるようにしておく。
※ 猫の場合、洗濯ネットの中では、おとなしくなることがあるようです。
- ③ 決められた場所で排泄できるように習慣づけておく。
- ④ 知らない人や動物を怖がらないよう、家族以外の人や犬、音などに慣らしておく。
- ⑤ 無駄吠えしないようしつけておく。



コマンドは、家族の中で統一しておきましょう

4 ペットフードなどの備蓄と持出しの準備

★ 優先順位の例 ★

優先順位 1 動物の健康や命に係わるもの

- 薬・療法食(尿石用、アレルギー用など)
- ペットフード、水(少なくとも5日分以上)
- フードボウル
- トイレ用品(トイレシート・猫砂)
- 衛生用品(ポリ袋、ウェットティッシュなど)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ())
- ())



※ うちの子の必需品も忘れずに!

優先順位 2 ペット用品

- キャリーバッグやケージ・クレート
- タオル、毛布、ひんやりシート
- トイレ用ペーパーや清浄綿(目や耳の掃除など)
- お気に入りのおもちゃなど匂いがついたもの
- 洗濯ネットなど(猫の場合は屋外診療・保護の際に有用)
- ガムテープ、ポリロープやマジック
(ゲージ等の補修、段ボールでハウス作り、動物情報の掲示など)
- ペットの服(抜け毛の飛散防止に)
- ())
- ())

※ うちの子の必需品も忘れずに!

5 家具を固定し、窓ガラスには飛散防止フィルムを貼る

倒れてくる家具の下敷きにならないよう、タンスやテレビなどは固定しましょう。ペットがいつもいる部屋には、安全な逃げ込みスペースを作っておくと安心です。

6 危険なブロック塀などからペットを遠ざける

ペットを外飼している場合、ブロック塀などが倒れたときに巻き込まれないように、つなぐ場所に気を付けてください。ガラス窓の下も危険ですね。

災害が発生したときは 【大地震の場合】

まずは、飼い主が全力でご自分の身を守ってください。ペットの安全も飼い主が無事であることです。揺れが収まったら建物から外に出て、周囲の状況も含めて安全を確認しましょう。どんな状況にも対応できるように避難方法をいくつか考えて起きましょう。

避難先は体育館などの避難所だけではありません

① 自宅での避難生活(安全に生活できる場合)

電気やガス、水道が止まっても、自宅の被害が少なければ避難所生活をする必要はありません。食料等は避難所で受け取ることができます。

② 避難所での避難生活(ペットと生活スペースは分かれます)

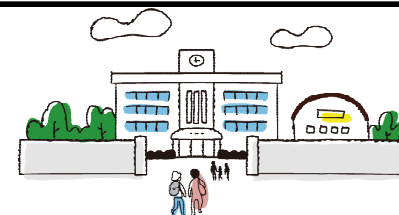
避難所では人間の生活が優先されます。避難所のルールやマナーを守り、決められた場所でお世話をしてください。(ペットフードの用意もありません)

③ 車の中、屋外テントでの避難生活

避難所となる学校のグラウンドなどで、自分の車やテントでペットと一緒に過ごします。プライバシーは確保できますが

④ 親戚・知人のところや施設の利用

被害の少なかった親戚や知人の家に可能であれば一緒に身を寄せたり、ペットは動物病院などに預けます。





① ペットと一緒に避難する

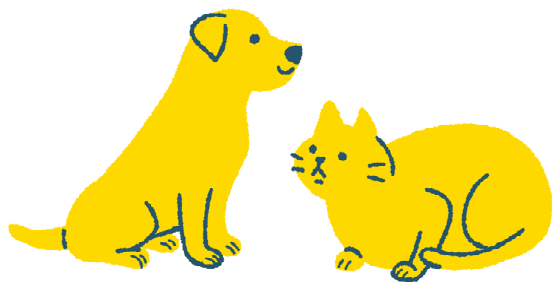
- ・道路におちているガラスやがれきなどで、肉球を傷つけないように注意する。
- ・背負えるタイプのキャリーケースは、両手が使えるので便利です。
- ・少しでも安全に避難できるコースを事前に確認しておきましょう。

② 避難所でペットを登録

- ・避難所のペット登録台帳に登録する。
- ・迷子札などを付けて、必ずペットの飼い主がわかるようにしておく。

③ 飼い主同士で協力する

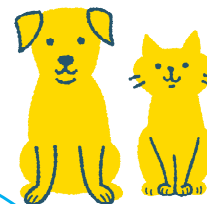
- ・避難所は、地域の避難者による自主運営となり、ペットの担当者はいません。
- ・ペットのお世話は、避難所のルールに従って飼い主が責任をもって行いましょう。
- ・「飼い主の会」を立ち上げ、よりよい飼育環境づくりを行いましょう。
飼育、散歩、トイレなどは必ず決められた場所で行い、衛生を保ちましょう。
フンは必ず回収し、尿には水をかけて臭いを抑えましょう。
- ・ストレス鳴きを防ぐため、適度な散歩とスキンシップでストレス解消を図りましょう。



平常時のお問い合わせ先	
防災・減災に関するお問い合わせ	危機管理課 ☎ 452-9017
犬の登録などに関するお問い合わせ	環境課 ☎ 452-6097

”ペットと一緒に”

そのための災害対策!!



飼い主が無事 でいること

災害時、ペットを守るのは飼い主だけです。まずは自分の安全を確保し、そのあと落ち着いてペットの安全を確保してください。

災害時は「自助」 が基本です

ペットを守るためには、日頃からの準備が大切です。また、避難所ではルールに従って、飼い主の責任でお世話しましょう。

助け合いが 大事です!!

避難所では飼い主同士の助け合いも重要となってきます。そのためにも、地域の防災訓練に参加して、ペットの避難についても話し合いましょう。

